

東京都の農林水産業の概要

特徴・取組

東京都は、西から山地、丘陵、台地と続く多摩地域、台地と低地に分かれ東京湾に臨む区部、伊豆諸島・小笠原諸島の島しょ部からなっている。夏は高温多湿、冬は小雨乾燥で、島しょ部は高温多湿で雨が多く、台風の影響を多く受ける。面積は小さい方から香川県、大阪府に次いで全国3位となっている。

東京都には多くの企業が集積し、事業所数が約62万所で全国の11.6%を占めている。資本金10億円以上の企業数が全国の半数を占める一方で、都内企業の99%が中小企業となっている。

東京都の農林水産業は大消費地に近い立地条件を活かし、多種多様な農林水産物を生産している。市場出荷はもとより、農産物直売所、庭先販売、マルシェ等で消費者への直接販売や、学校給食やレストランへの供給など様々な販路で新鮮で安全安心な農林水産物を都民に提供している。また、農業に関心の高い都民が多く、農作業や収穫を楽しむ農業体験農園の人气が高い。

東京都では、新たな農業の担い手を確保・育成するために「東京農業アカデミー」を令和2年度にスタートさせる。

また、TOKYO★ブランドの農畜産物として、豚「TOKYO X（エックス）」、鶏肉「東京しゃも」（令和元年G I登録）、キウイフルーツ「東京ゴールド」等を開発・改良し生産・販売・PR活動に取り組んでいる。

- このほか、
- ・東京オリンピック・パラリンピックに向けGAPの普及活動に力を入れている。
 - ・東京型統合環境制御生産システムを開発し、先進技術を活用した施設野菜の増収や作業の効率化に取り組んでいる。
 - ・労働力不足による農地の遊休化・低利用化を解消するために、援農ボランティアの育成に力を入れている。
 - ・花粉の少ないスギ等への樹種更新を行う森林整備を行っている。

主な農林水産物

こまつな

江戸発祥で、八代将軍・徳川吉宗公が鷹狩で訪れた小松川村の名にちなみ命名したといわれる。都内ほぼ全域で生産。（収穫量全国4位）



キャベツ

日本に導入されたのは、明治初年で、葛飾の篤農家が品種改良を重ね、全国に広まった。



うど(伏込み)

江戸時代から生産されている伝統的ブランド野菜。柔らかく生産する軟化技術は、市場から高い評価を受けている。（収穫量全国7位）



日本なし

栽培面積は稲城(いなぎ)市が最も多く、「稲城」という品種は東京梨のブランド。果実は600g以上あり大果で、甘み、果汁ともに多い。



トマト

近年は環境制御システムを導入したハウスでの水耕栽培が人気。長期間の収穫が可能となり、高い収益性が期待できる。



豚(TOKYO X)

平成9年に東京都畜産試験場(現:東京都農林総合センター)が開発。霜降りの柔らかい肉質、優れた味わい、良質な脂肪が特徴。



切り葉(切り花類)

伊豆諸島の温暖な気候を活かし、フェニックス・ロベリニーなどを年間を通して生産。全国出荷量の34%を占める。（出荷量全国1位）



あしたば

伊豆諸島等に自生するセリ科の野菜。畑で栽培し生葉の出荷のほか、粉末やあしたば茶などの加工品もあり、健康野菜として人気。



かつお類

黒潮の影響によって、我が国有数の好漁場が形成され、全国3位の漁獲量を誇る。八丈島の樽鰹は島のブランド。



きんめだい

水深200~800mに生息。金色の大きな目が特徴。鯛とは別の仲間。神津(こうづ)島、八丈島を筆頭に伊豆諸島全域で漁獲。



東京都における農林水産物の主な産地

西多摩地域

【農畜産物】スイートコーン、ばれいしょ、こまつな、うめ、くり、豚、鶏卵、茶、シクラメン
 【林産物】わさび
 【水産物】やまめ、いわな、にじます、あゆ

北多摩地域

【農産物】こまつな、トマト、ほうれんそう、キャベツ、にんじん、うど、ブロッコリー、カリフラワー、日本なし、ブルーベリー、花壇用苗もの
 【林産物】ぎんなん

区部地域

【農産物】こまつな、えだまめ、キャベツ、だいこん
 【水産物】あなご、あさり、しじみ

南多摩地域

【農畜産物】こまつな、ほうれんそう、だいこん、さといも、トマト、ばれいしょ、かぶ、日本なし、ぶどう、くり、生乳
 【林産物】しいたけ
 【水産物】あゆ

小笠原地域

【農産物】パッションフルーツ、レモン、トマト
 【水産物】かじき類、まぐろ類、いか類

大島地域

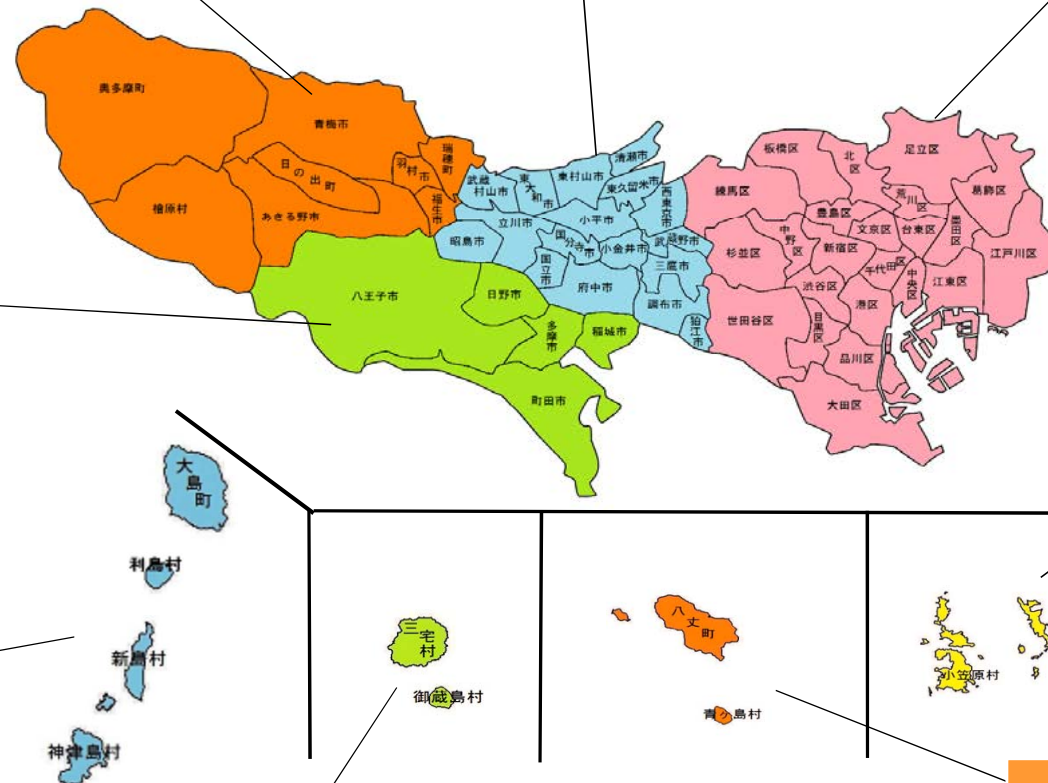
【農産物】あしたば、切り葉、切り枝、切り花、パッションフルーツ、かんしょ
 【水産物】きんめだい、たかべ、いさき、いせえび、てんぐさ、さざえ

三宅地域

【農産物】さといも、あしたば、切り葉、パッションフルーツ
 【水産物】まぐろ類、きんめだい、むろあじ、てんぐさ

八丈地域

【農産物】切り葉、切り花、観葉植物、あしたば、レモン
 【水産物】きんめだい、とびうお、むろあじ、かつお類



東京都の農業（１）

- ・耕地面積は6,720haで、そのほとんどが畑である。
- ・農業経営体数は6,023経営体で、総農家数は1万1,222戸、そのうち販売農家数は5,623戸で、主業農家数は1,871戸である。
- ・認定農業者数は1,680経営体で、全国第37位である。

耕地面積

区分	東京都	全国	全国順位
耕地面積	6,720 ha	4,397,000 ha	47
田	249 ha	2,393,000 ha	47
畑	6,470 ha	2,004,000 ha	40
普通畑	4,870 ha	1,134,000 ha	35
樹園地	1,540 ha	273,100 ha	40
牧草地	62 ha	596,800 ha	39
参考) 総土地面積	219,407 ha	37,797,524 ha	45

出典：「令和元年耕地面積(7月15日現在)」、「令和元年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省 国土地理院)

農業経営体数、農家数及び集落営農数

区分	東京都	全国	全国順位
農業経営体数	6,023 経営体	1,377,266 経営体	47
法人経営	71 経営体	27,101 経営体	47
総農家数	11,222 戸	2,155,082 戸	47
販売農家	5,623 戸	1,329,591 戸	47
主業農家	1,871 戸	293,928 戸	40
参考) 世帯総数	6,701,122 世帯	53,448,685 世帯	1
集落営農数	- 集落営農	14,949 集落営農	-

出典：「2015年農林業センサス(平成27年2月1日現在)」、「平成27年国勢調査」(総務省統計局)、「集落営農実態調査(平成31年2月1日現在)」

荒廃農地面積

区分	東京都	全国	全国順位
荒廃農地面積	3,045 ha	279,970 ha	30

出典：「平成30年の都道府県別の荒廃農地面積」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区分	東京都	全国	全国順位
基幹的農業従事者数	9,681 人	1,753,764 人	47
男	5,992 人	1,004,716 人	47
女	3,689 人	749,048 人	47
65歳以上	5,233 人	1,132,072 人	47
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	54.1 %	64.6 %	-
認定農業者数	1,680 経営体	239,043 経営体	37
法人数	26 法人	24,965 法人	47
参考) 総人口数	13,515,271 人	127,094,745 人	1

出典：「2015年農林業センサス(平成27年2月1日現在)」、「認定農業者の認定状況(平成31年3月末現在)」、「平成27年国勢調査」(総務省統計局)

担い手への農地の集積状況

区分	東京都	全国	全国順位
担い手への集積面積	1,618 ha	2,485,707 ha	46
集積率	23.8 %	56.2 %	40

出典：「農地中間管理機構の実績等に関する資料(平成30年度版)」

注：農地中間管理機構を介さないものを含む。
平成31年3月末の数値である。

令和2年3月1日時点における最新の統計等の公表データを使用

東京都の農業（２）

- ・農業産出額は240億円で、全国第47位。内訳は、野菜が134億円、花きが37億円、果実が33億円。
- ・農畜産物の生産状況は、切り葉（切り花類）が全国第1位、こまつなが4位、うど（伏込み）が7位。
- ・農業者による生産関連事業は、農産物の加工の年間販売金額が全国第5位、農家レストランが5位。

農業産出額

区分	東京都	全国	全国順位
農業産出額	240 億円	91,283 億円	47
米	1 億円	17,513 億円	47
雑穀	0 億円	94 億円	42
豆類	0 億円	637 億円	45
いも類	8 億円	1,976 億円	26
野菜	134 億円	23,212 億円	40
こまつな	20 億円	320 億円	4
ほうれんそう	16 億円	878 億円	18
えだまめ（未成熟）	12 億円	411 億円	9
トマト	11 億円	2,367 億円	42
果実	33 億円	8,406 億円	40
日本なし	14 億円	713 億円	16
花き	37 億円	3,327 億円	27
切り葉	9 億円	43 億円	1
工芸農作物	0 億円	1,786 億円	44
畜産	20 億円	32,589 億円	47
肉用牛	2 億円	7,416 億円	46
乳用牛	13 億円	9,339 億円	45
生乳	10 億円	7,473 億円	45
豚	2 億円	6,104 億円	45
鶏	2 億円	8,999 億円	46
鶏卵	2 億円	4,848 億円	46
その他畜産物	1 億円	731 億円	37
加工農産物	0 億円	615 億円	44

出典：「平成30年生産農業所得統計」

注：1 「全国」の値は、都道府県別に推計した農業産出額を合計した値であり、全国推計した農業総産出額とは一致しない。

2 「切り葉」の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

農畜産物の生産状況

区分	年次	東京都	全国	全国順位	
切り葉（切り花類）	出荷量	H30	37,400 千本	113,100 千本	1
こまつな	収穫量	H30	7,860 t	115,600 t	4
うど（伏込み）	収穫量	H28	23 t	67,200 t	7
カリフラワー	収穫量	H30	591 t	19,700 t	9
ギンナン	収穫量	H30	14 t	989 t	12
かぶ	収穫量	H30	1,800 t	117,700 t	13
さといも	収穫量	H30	2,660 t	144,800 t	14
くり	収穫量	H30	302 t	16,500 t	14
ほうれんそう	収穫量	H30	4,170 t	228,300 t	15
にんじん	収穫量	H30	3,340 t	574,700 t	15
日本なし	収穫量	H30	1,800 t	231,800 t	24

出典：「野菜生産出荷統計」、「果樹生産出荷統計」、「特産果樹生産動態等調査」、「花き生産出荷統計」、「地域特産野菜生産状況」

注：「うど（伏込み）」の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

農業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数

区分	東京都	全国	全国順位	
農産物の加工	総額	44,582 百万円	941,262 百万円	5
	事業体数	200 事業体	27,920 事業体	44
農産物直売所	総額	16,089 百万円	1,079,020 百万円	32
	事業体数	660 事業体	23,940 事業体	13
観光農園	総額	546 百万円	40,159 百万円	23
	経営体数	140 経営体	6,590 経営体	14
農家民宿	総額	79 百万円	5,734 百万円	18
	経営体数	10 経営体	2,040 経営体	32
農家レストラン	総額	1,691 百万円	38,260 百万円	5
	事業体数	20 事業体	1,560 事業体	24

出典：「平成29年度6次産業化総合調査」

注：「農家民宿」及び「農家レストラン」の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

令和2年3月1日時点における最新の統計等の公表データを使用

東京都の林業

- ・ 林野面積は7万7,253haで、全国第46位。林業経営体数は302経営体で、全国第44位。
- ・ 林業産出額は4億4,000万円、全国第45位。内訳は、木材生産が2億3,000万円、栽培きのこ類生産が2億1,000万円。
- ・ 林産物の生産状況は、わさび（葉柄）及びわさび（根茎）が全国第6位。

林野面積

区分	東京都	全国	全国順位
林野面積	77,253 ha	24,802,277 ha	46
国有林	5,970 ha	7,175,516 ha	46
民有林	71,283 ha	17,626,761 ha	46
人工林面積	35,158 ha	10,203,842 ha	44

出典：「2015年農林業センサス(平成27年2月1日現在)」「森林資源の現況」(平成29年3月31日現在)

林産物の生産状況

区分	東京都	全国	全国順位
素材生産量	27 千m ³	21,640 千m ³	43
針葉樹	24 千m ³	19,462 千m ³	43
あかまつ・くろまつ	1 千m ³	628 千m ³	27
広葉樹	3 千m ³	2,178 千m ³	41
わさび（葉柄）	生産量 23 t	1,481 t	6
わさび（根茎）	生産量 10 t	599 t	6

出典：「平成30年木材統計」、「平成30年特用林産基礎資料」

林業経営体数

区分	東京都	全国	全国順位
林業経営体数	302 経営体	87,284 経営体	44
法人経営	61 経営体	5,599 経営体	35

出典：「2015年農林業センサス(平成27年2月1日現在)」

製材工場数

区分	東京都	全国	全国順位
工場数	23 工場	4,582 工場	45
製材用素材の入荷があった工場数	23 工場	4,551 工場	45
国産材のみ	16 工場	3,521 工場	44
国産材と輸入材	6 工場	792 工場	38

出典：「平成30年木材統計」

林業産出額

区分	東京都	全国	全国順位
林業産出額	4.4 億円	4,628.5 億円	45
木材生産	2.3 億円	2,278.7 億円	43
栽培きのこ類生産	2.1 億円	2,256.6 億円	46

出典：「平成30年林業産出額」

注：「全国」の値は、都道府県別に推計した林業産出額を合計した値であり、全国推計した林業産出額と一致しない。

令和2年3月1日時点における最新の統計等の公表データを使用

東京都の漁業

- ・海面漁業・養殖業産出額は180億円で、全国第26位。
- ・水産物の生産状況は、海面漁業漁獲量が全国第19位で、きはだが2位、かつお及びめかじきが3位。
- ・漁業者等による生産関連事業は、水産物直売所の年間販売金額が1億1,300万円で全国第29位。

漁船隻数

区分	東京都	全国	全国順位
漁船隻数	548 隻	132,201 隻	35
動力漁船	429 隻	69,920 隻	33

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

注：漁船隻数は、海面漁業経営体が漁業生産のために使用した漁船の数である。

漁業経営体数

区分	東京都	全国	全国順位
海面漁業経営体数	512 経営体	79,067 経営体	35
内水面漁業経営体数	19 経営体	4,772 経営体	41

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

漁業就業者数

区分	東京都	全国	全国順位
海面漁業就業者数	896 人	151,701 人	36
男	871 人	134,186 人	36
女	25 人	17,515 人	36

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

漁業産出額

区分	東京都	全国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	180 億円	14,593 億円	26

出典：「平成29年漁業産出額」

水産物の生産状況

区分	東京都	全国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	x t	4,364,327 t	—
海面漁業漁獲量	46,849 t	3,359,456 t	19
きはだ	7,751 t	72,216 t	2
かつお	29,288 t	247,716 t	3
めかじき	534 t	7,515 t	3
内水面漁業・養殖業生産量	346 t	56,806 t	25
内水面漁業漁獲量	304 t	26,957 t	10
しじみ	261 t	9,646 t	5
内水面養殖業収穫量	42 t	29,849 t	34
にじます	23 t	4,732 t	20

出典：「平成30年漁業・養殖業生産統計」

注：1 海面漁業・養殖業生産量は、当該都道府県に所在する漁業経営体の生産量である。

2 海面漁業漁獲量を除く順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

3 東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所事故の影響を受けた区域において、同事故の影響により出荷制限又出荷自粛の措置がとられたものについては、生産量に含めていない。

漁業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数

区分	東京都	全国	全国順位	
水産物の加工	総額	181 百万円	174,481 百万円	37
	事業体数	10 事業体	1,520 事業体	30
水産物直売所	総額	113 百万円	37,465 百万円	29
	事業体数	10 事業体	680 事業体	18
漁家民宿	総額	286 百万円	7,643 百万円	7
	経営体数	30 経営体	980 経営体	10

出典：「平成29年度6次産業化総合調査」

注：順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

令和2年3月1日時点における最新の統計等の公表データを使用

東京都の農林水産業の話題等

新規就農者の育成

東京都は、農外からの就農希望者を都市農業の担い手として育成することを目的とする「東京農業アカデミー」を、令和2年4月八王子市に開設。その特徴は、次のとおりとなっている。

- ① 技術と経営両面からの実践的なカリキュラム
 - ・土づくりや育苗、害虫防除などの技術の習得、自ら立てた作付計画による自主的な栽培実習
 - ・農業簿記やGAP等の経営知識の習得、自ら農産物を販売し収支計算を行う経営分析の実習
- ② 就農定着に向けた支援メニュー
 - ・研修生に対する農地のあっせん（都農業会議や区市町村等と連携）
 - ・営農開始時における経営計画の作成支援
 - ・先進農家での派遣研修の実施



研修農場周辺風景【東京都提供】

都市農地の保全と新たな担い手の誕生

都内の農地面積は約7千ha、うち市街化区域内農地は約4千haで、このうち約8割が生産緑地の指定を受けている。令和4年10月以降、生産緑地は指定から順次30年を迎えることから、関係自治体では農地の保全のためにJA等と連携して、特定生産緑地への移行を推進している。

平成30年9月、「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」が施行され、これまで困難であった生産緑地の貸借が可能となり、都市農地の有効活用と適正保全が図られることとなった。

こうした中、平成31年2月、日野市において全国初の当該制度を活用した認定が行われるなど、都市農地の貸借が増加している。



新規就農者(右)と日野市長【日野市提供】

東京2020大会に向けた東京都GAP認証農産物

東京都は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における食材調達の要件を満たし、将来にわたり持続可能な農業を推進するため、農林水産省の「GAPの共通基盤に関するガイドライン」に基づく取組事項（食品安全、環境保全、労働安全等）に交流、食育、防災機能等の項目を加えた東京都GAP認証制度を平成30年に創設。平成31年1月、初の東京都GAP認証式が行われ6生産者、1団体（都立農業高校）が認証を取得した。

都は引き続き認証取得のための支援を行い、認証件数は令和2年2月時点で46件に拡大。東京2020大会への東京都産農産物の食材提供に向けた取組を進めている。



東京都GAP認証証書授与式【東京都提供】